

研究所だより

研究所責任者 武 敏夫

平成二十七年より研究所の指導システムが変更になりました。以前は学校的な色の濃い講座で、毎日登校してモデル描写、静物、石膏デッサン等を重点にしましたが、しかし、殆んどが人物中心で研究所に行けば何時でもモデルが描ける事に人物画に対しての感動が薄れて、ついマンネリ化したままの状態で、表面のみの写生で終ってしまいがちになり、当然五日間連続の描写が重荷になり、完成に至らず終わってしまう方がみられます。

近年は月謝での受講が減少して、チケットでの受講が自由に勉強出来るせいか、当然受講生の減少に至り何か良い案がないのか、せっかく示現会独自の特色でもある、連続モデル描写をカルチャー並みには落したくない。そこで新しい案として一週おきにモデル描写を考え実行しましたところ、たちまち赤字解消に至り昨年度は良い結果が出ました。本年度も良いスタートは出来たのです

が、今年はどうもいけません。夏期講習を含めて全体の受講生の参加が減少しています。今一度新しい企画等考えていきます。皆様のご協力をお願い致します。



▶ 研究所の様子

絵画研究所に入会して

埼玉 鈴木 正夫

仕事を定年で辞め、もう一年働いて、漸く昼間から絵を描くことができる身となりました。

どこかでもっと絵の勉強をしたい、指導をうけたい、人間を描きたいと思っていたところ、日曜日に人体デッサンを実施しているクラブの北島先生から紹介され入会しました。入ってみると同じクラブにいた小池さん、松尾さんとも再会でき嬉しかったです。

指導していただいている先生方は絵画に造詣が深く、私が気づかない問題点を丁寧に指導してくださいます。とても有難く楽しいです。

どんどん制作して腕を磨いていきたいと思っています。

研究所夏期講習会にて

東京 村上 和男

駒込駅の細長いホームを、名勝「六義園」と「古河庭園」にむかう人々の波に逆らい、東口を降り示現会研究所に足を運びます。

青森や富山から参加された方、会

員会友の諸先輩から、色使いや描き方スタイルなど学ぶことの多い一週間でした。

午前午後を通して描き続けるのは初めての経験でした。午後ともなると集中力の限界でしたが、ぎりぎりの中で描くことが今までと違う作品を作りだせた気がします。

武校長先生はじめ、多くの先生方のご指導と講評をいただき、今まで見えていなかった自分に気づくことができました。たいへん、ありがとうございました。



▲ 第2回示絵研展